

【石川県】土地改良を契機とした農村地域の振興事例集

市町村	地区名等	タイトル	頁	発行月	Vol.
金沢市	粟五・粟五2期	加工・流通体制の強化による「五郎島金時」ブランドの形成	1	H28.12	2
中能登町	東馬場	法人設立による大規模化・効率化と「能登野菜」等の導入	2	H29.08	3
中能登町	東馬場	重労働からの解放と女性が中心となった新規作物の導入	3	H29.08	3
七尾市	鉦打	活力ある農村と地域農業を未来へつなぐ「1地域1農場」への取組	4	R3.03	7
中能登町	山田池	ため池の防災工事により下流の被害を防止	5	R4.03	8
白山市	山島用水	排水路の改修による溢水被害の未然防止	6	R6.03	10

加工・流通体制の強化による「五郎島金時」ブランドの形成 【石川県金沢市】

かなざわし

体制・人材
づくり

栽培作物
・方法

加工・出荷

販売

【工夫のポイント】

- 海岸砂丘地で、さつまいも「五郎島金時」を生産。**徹底した品質管理等を通じて、地域ブランドを確立。**
- 基盤整備により、営農の省力化が図られ、若手就農者が増加。
- **貯蔵施設の整備による通年供給の体制を構築するとともに、加工による新たな商品開発**にも取り組み、**1戸当たりの販売額が増加。**

基盤整備による労力の軽減と品質・収量の安定化

区画拡大とかんがい施設の整備により、**農業機械の作業効率の向上や、用水の安定供給による水管理の省力化**が図られ、「さつまいも」や「すいか」等の農産物で高品質かつ収量の安定した生産が実現。



基盤整備 (H12年～H20年)

【整備前】

昭和36～44年にかけて、一次整理済みであるが、**複雑な波状地形**であるため、農作業に多大な時間と労力を費やしており、また、**既設のかんがい施設は、揚水能力の低下や度重なる故障**により、用水供給に支障をきたしていた。



【取組地域の概要】

○位置 かなざわし
石川県金沢市

あわご あわごにき
粟五・粟五2期地区



石川県

○主要作物
・さつまいも、
すいか、だいこん

- 主な支援施策
- ・積寒寒冷地対策事業(S36～S37)
 - ・土地区画整理事業(S39～S44)
 - ・構造改善事業(S39～S42)
 - ・県営畑地帯総合整備事業(H12～H20)
 - ・多面的機能支払交付金(H26～)ほか

生産現場

徹底した品質管理による地域ブランドの確立

- 「五郎島金時」の名称で、**登録商標や加賀野菜の認定**等に取り組み、地域ブランドを確立。
- JA金沢市と生産者間で、施肥基準や定植・収穫期間などの栽培協定を締結し、食味を重視した栽培を行い、**徹底した品質管理**を実施。



「五郎島金時」

加工・流通

計画的な生産・貯蔵・出荷・販売体制の整備



キュアリング貯蔵施設

- 8～11月に収穫された「五郎島金時」は、**定温貯蔵施設やキュアリング貯蔵施設に貯蔵**することで、翌年6月までの長期間に渡る計画的な出荷・販売が実現。

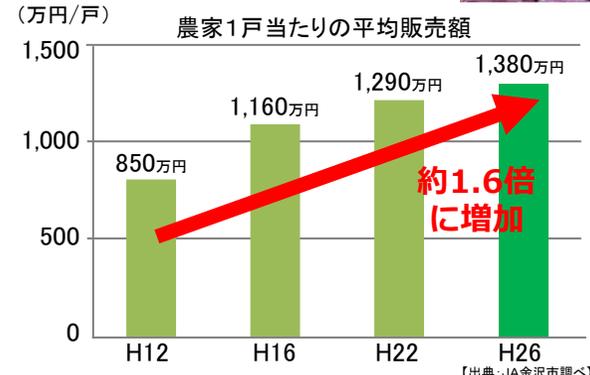
担い手

エコファーマーによる環境保全型農業を展開

- 生産農家は40～50代が主体で後継者も多く、基盤整備を契機に、若手就農者が増加。
- **担い手全員が「エコファーマー」に認定**されており、減農薬や減化学肥料等の環境に配慮した生産を行い、安心安全な農産物の出荷に努めている。

地域ブランドの確立による販売額の増加

- 地域が一体となった品質管理による地域ブランドの形成に加え、規格外品などを「芋ペースト」として加工し、**大手食品会社やコンビニ等と連携した商品開発・販売**にも取り組むことで販売額の増加を実現。地区全体での青果品販売額は、6億円を超え、**1戸当たりの平均は約1,400万円に増加。**



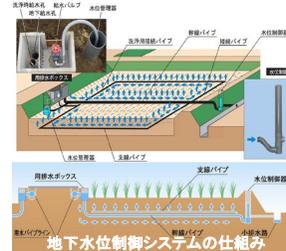
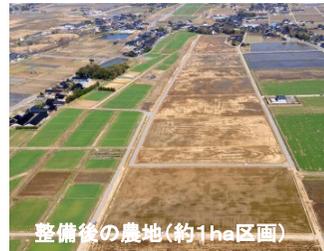
【工夫のポイント】

- ほ場整備を契機として営農組合を立ち上げた後、**農事組合法人を設立**。地区内の32戸が構成農家として参画。
- 石川県内として初めて**地下水位制御システムを導入**し、汎用化した水田にて**能登野菜や花き等の高収益作物を導入**。
- 道の駅での**直接販売も取り組む**。

基盤

汎用農地の整備による生産性の向上

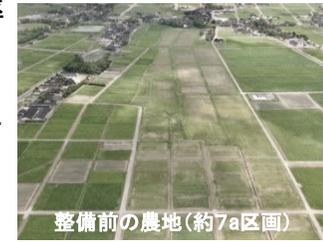
農地の大区画化や地下水位制御システムの整備、用水路のパイライン化により、**生産コストの低減**や**農業用水供給の安定化**のほか、**高収益作物の導入が可能**となった。



基盤整備 (H19年～H27年)

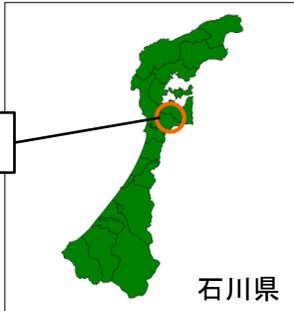
【整備前】

昭和30～36年に農地整備を実施していたものの、**農地は小区画(約7a)**で**農道は狭く、用排水路は老朽化が著しい**ことから、**効率的な営農ができず、農作業や維持管理に多大な時間と労力を要していた**。



【取組地域の概要】

- 位置
石川県 なかのとまち 中能登町 (半島)



ひがしはば
東馬場地区

- 主要作物
・水稲、大麦、そば、野菜(能登野菜、か-野菜)、花き(フリジア、葉牡丹)

- 主な支援施策
・農業競争力強化基盤整備事業 (H19～H27)
・多面的機能支払交付金 (H19～)
・担い手経営展開リース事業 (H21) 等

生産現場

能登野菜等の導入と「能登米コシヒカリ」生産



- 消費者ニーズを把握し、能登白ねぎ、青かぶ、中島菜、金糸瓜等の「能登野菜」や、県オリジナルの花き品種「エアリーフローラ」などの**高収益作物を積極的に導入**。
- 世界農業遺産に認定された「能登の里山里海」の地で**特別栽培米「能登米コシヒカリ」を生産**。

加工・流通

道の駅(直売所)で農産物を販売



- 収穫された農産物は、JAへ出荷するほか、近隣の道の駅「**織姫の里 なかのと**」で**直接販売**。

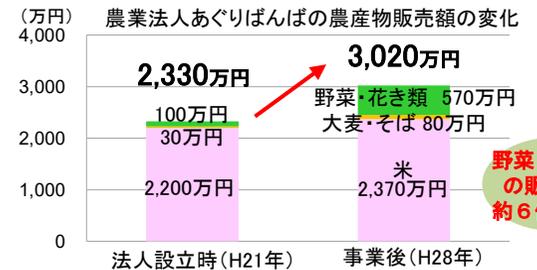
担い手

農業法人設立による農地集積と雇用の創出

- ほ場整備を契機に「**農事組合法人あぐりばんば**」を設立。農地の利用権設定により、**集落内の約8割を一括して管理・運営**。
- 経営規模拡大に伴い、**新たな雇用に創出**。

経営規模の拡大や高収益作物の導入による販売額の増加と雇用の創出

- 基盤整備により、**野菜・花き類などを導入**。法人の**販売額は、新規に導入した作物を中心として増加**しており、設立時点と比較すると**基盤整備完了後には約6倍に増加**。経営の多角化を図り**安定経営を目指している**。
- また、**法人の経営規模拡大に伴って**、若者(20代男性)1名、女性3名を雇用しており、地域に**新たな雇用に創出している**。



地域概要

なかのとまち
石川県 中能登町（半島）



【主要作物】
・水稲、大麦、そば、野菜、花き

【主な基盤整備】
・県営ほ場整備事業 (H19～H27)

ほ場整備で農地を大区画に

【整備前】

小区画で農道が狭く、用排水路も老朽化が著しいことから、効率的な営農ができず、農作業や維持管理に多大な時間と労力を要していた。



基盤整備 (H19年～H27年)

【整備後】

- 農地の大区画化や地下水制御システムの整備により、**汎用化水田を整備**。大型機械の導入等より、営農労働時間が大幅に軽減。
- 農事組合法人「あぐりばんば」を設立。



女性たちの声



T. Hさん (左上)
M. Yさん (右上)
K. Uさん (左下)

平成26年度から農事組合法人「あぐりばんば」に勤務

VOICE

田植えや稲刈りの重労働から解放された！

- 中能登町は、稲作主体の農業と繊維産業が古からの基幹産業であり、**農家に嫁いだ女性達は、農業に従事する傍ら機織り作業を行い家計を支えてきました。**
- 田植えや稲刈りの重労働に加え、機織りや家事・育児にも追われる生活は**女性にとって過酷なもの**でしたが、ほ場整備によって大型機械が導入され、作業の効率が良くなったおかげで、夫が農業に従事し、**私たちは辛い重労働から解放されました。**

野菜や花き類等の生産拡大による販売額の増加

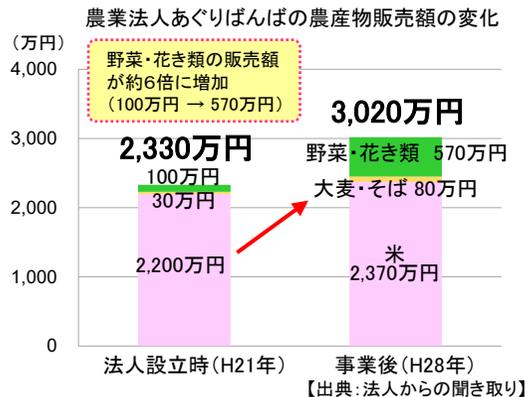
- 法人における野菜や花き類の**販売額は法人設立時より6倍に増加**。法人全体の販売額の増加に大きく貢献している。



選花作業の様子



紫大根(能登むすめ)



私たちのチャレンジ

Action 1



Action 2



餅つき大会

ネギ祭り

- **花き類(フリージア)**や中能登町が推奨する**カラー野菜(「姫のネギ」、「能登むすめ」など)**といった**新たな品種の栽培を開始**。

- 子供の習い事の送り迎えができるようになったほか、**家族の団らんやショッピングに出かける機会も増加**しました。
- 婦人会や子供会などによる**地域活動も活発に実施**しています。

創出された時間を活用し、地域活性化に向けた取組を実践

【工夫のポイント】

- **ほ場整備の実施** (7集落約120ha)に併せて**農事組合法人を設立**し、農業を地域の一大産業化。
- **ブランド米「鉦打米」**や、**中島菜・小菊かぼちゃ**など、高収益作物である**能登野菜を導入**。
- 地区内の**女性の参画による6次産業化**にも取り組み、所得向上と雇用創出を確保。
- 祭りや農作業体験を通じた**都市農村交流**を実施。

これらは「鉦打ふるさとづくり協議会(H4設立)」が、持続的・魅力的な農村づくりのため、平成21年に策定した「鉦打サバイバル戦略」によるもの。

【取組地域の概要】

- **位置** ななおしなかじままち 石川県七尾市中島町(半島、特農、過疎)

石川県

なたうち 鉦打地域



- **主要作物** ・水稲、白ネギなど
- **主な支援施策** ・県営農地整備事業(経営体育成型、農地中間管理機構関連農地整備事業)(H24~) ・産地パワーアップ事業(H29)

ほ場整備による営農の効率化

- 鉦打地域の7集落約120haにおいて、区画整備や暗渠排水等の整備を実施。
- 大型農機の導入が可能となり、乾田直播等による**農業生産性の向上及び高収益作物の生産拡大**を実現。



基盤整備

(H24年~)

【整備前】

湿田・半湿田が多く、ほ場区画は平均7aと狭小で谷地田のため、農作業に支障。



基盤

生産現場

農事組合法人設立による営農体制の強化

- 平成27年に地域農業の産業化に向け「**農事組合法人なたうち**」を設立。
- 大型機械の導入やライスセンターの建設により、**営農の効率化と品質向上、コスト削減**を実現。



高付加価値化と6次産業化推進

- 平成の名水百選にも選出された清流で育てた米を「**鉦打米**」として**ブランド化**。
- 能登の風土を活かし古くから作られている「**能登野菜**」である「**中島菜**」や「**小菊かぼちゃ**」など高収益作物を導入。
- **女性グループ**による加工品の製造・販売と**新たな雇用の創出**。



加工・流通

地域の取組

地域おこし活動で魅力のある農村づくり

- 地域おこし勉強会、インターンシップの受け入れ、祭りや農作業体験を通じた**都市住民との交流**を推進。



基盤整備と地域の取組が一体となった収益力の向上

- 整備された農地を「農事組合法人なたうち」が担うことで、**経営面積が100haを超えるメガファームへ**。



- 都市農村交流事業などをきっかけに**地域外で就職していた青年2名と夫婦1組がU、Iターン**。今後も後継者の育成と外部人材確保に取り組む。
- 能登野菜を含めた複合化経営に加え、6次産業化にも引き続き取り組み、**新たな中山間農業のモデル**となることが目標。

【対策のポイント】

- やまだいけ 山田池は、貯水量が1万200m³であり、下流に住宅及び県道が存在するため、決壊時に大きな被害のおそれ。
- このため、3か年緊急対策において、堤体と洪水吐の改修を実施。
- ため池の防災工事を完了したことで、堤体の劣化による決壊被害を回避。

【取組地域の概要】

- **位置** なかのまち
石川県中能登町



- **主要作物**
・水稲

事業名	事業費	対策期間
農村地域防災減災事業	1億1,310万円	H29～R3
うち3か年緊急対策	5,806万円	H30～R2

ため池の防災工事を実施

- 3か年緊急対策において、堤体の漏水、浸食への対策と洪水吐の改修を実施。

対策前



堤体の劣化により低水管理を実施



防災工事

(H29～R3)

対策後



堤体の決壊を防止し、下流の被害を回避

- 堤体の決壊のおそれがあったが、防災工事を完了したことで、堤体の決壊を未然に防ぎ、下流の住宅や県道への被害を回避。

想定される被害

	想定被害額	影響を受ける住宅
対策なし (決壊した場合)	1億3,900万円	10戸
対策あり	被害なし	被害なし



基盤

対策の効果

【対策のポイント】

- 激甚化する豪雨災害に対して区内用排水路の流下能力が不足し、**溢水被害が発生**。
- このため、**用排水路の改修工事を実施し、水路断面を拡大することで排水能力を向上**。
- その結果、**令和4年8月の豪雨においても、排水路の溢水被害を防止**。

【取組地域の概要】

○位置 はくさんし
石川県白山市

石川県

やまじまようすい
山島用水地区



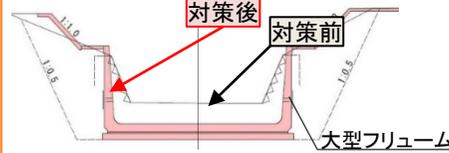
○実施事業

- ・農村地域防災減災事業 (R1~R3)
- うち5か年加速化対策 (R2~R3)

用排水路の改修

- 用排水路の**水路断面を拡幅する改修工事**により、**排水能力を向上**。

整備内容



整備後の状況

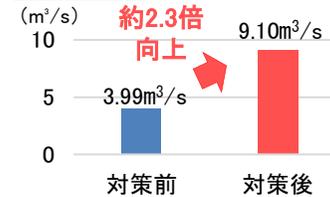


整備前 整備後

断面	幅 3100mm 高さ 800mm	幅 3200mm 高さ 1300mm
排水能力	3.99m ³ /s	9.10m ³ /s

用排水路の改修
(H31年~R3年)

排水能力



【整備前】

山島用水4-5号支線は豪雨時の区内排水に対して流下能力が不足していたため、**溢水被害が発生**。

平成29年7月の溢水状況
(最大時間雨量21mm/h)



用排水路の改修により溢水被害を未然防止

- 最大時間雨量21mm/hを記録した**平成29年7月では溢水被害が発生**。
- 水路の断面拡幅により流下能力が向上し、最大時間雨量47mm/hを記録した**令和4年8月の大雨において、溢水被害は無し**。

対策の効果

被害が想定される範囲



機能が喪失した際の
想定される被害
(1/10確率降雨)

	想定被害額	想定湛水面積
改修前	34億円	1,043ha
改修後	被害なし	被害なし

【対策後】令和4年8月4日豪雨直後の状況
(最大時間雨量47mm/h)

